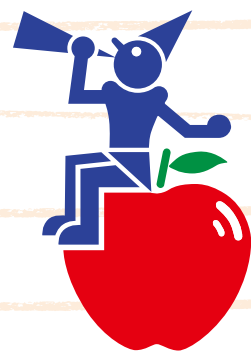


議会 だより



令和3年1月18日

飯田市議会だより

IIDACITY-gikaidayori

No.221

編集/広報広聴委員会 発行/飯田市議会 〒395-8501 長野県飯田市大久保町2534

80
古紙配合率80%紙



第4回定例会	②
議会報告・意見交換会	③
代表質問／一般質問	④～⑦
委員会	⑧～⑪
ここに注目	⑫

三穂保育園のおやす作り(三穂)

～世代を越えて受け継がれる正月の伝統行事～

令和2年

第4回 定例会

11月25日
～
12月18日
開催

11月25日に開会した第4回定例会では、まず、初日に提案された人事案件は、即日採決により全て同意しました。

また、新型コロナウイルス感染症緊急対策事業費の第6弾を内容とする一般会計補正予算（第9号）案などの予算議案及び初日提案のその他の案件については、各常任委員会による審査を経て、初日又は最終日に全て可決しました。

最終日には、副市長の選任についての人事案件とひとり親世帯臨時特別給付金の再支給に係る一般会計補正予算（第11号）案が提案され、いずれも同意及び可決しました。



議案の提出件数

	11/25 初日	12/18 最終日
報告	4	
人事	2	1
条例	6	1(1)
一般	10	4(4)
予算	8	1
計	30	7(5)

()内はうち議会議案の数

第6弾の特徴

- ・雇用（働く人）への支援
- ・感染再拡大への対応
- ・飯田市出身学生のふるさと帰省支援
- ・高齢者、介護医療従事者等への抗原検査費用の助成
- ・安心できる医療の提供



新型コロナウイルス感染症緊急対策事業費(第6弾)の主な内訳

事業費 62,828千円

①事業者等への支援

8,651千円

雇用調整助成金の申請費用の補助など

②個人への支援

51,623千円

飯田市出身学生の感染症検査費用及び帰省費用の補助など

③地域の医療を守る

1,500千円

休日夜間急患診療所の施設整備

④教育現場への対応

911千円

校外活動延期等への支援

⑤その他の対策

143千円

飯田市新型コロナウイルス感染症対策専門家会議の開設

子育ての孤立化を防ぐために！

予算編成に向けた提言書を
市長に提出

今年度の議会

報告・意見交換

会では、コロナ禍における子育ての孤立化に関しての切実な意見を多く頂いたことから、議会では緊急的に予算措置の必要な事項を整理し、市長に提言書を提出しました。



▲議長から市長へ提言書を手交

【提言内容（一部要約）】

コロナ禍においては、1年前とは全く違った子育て環境となっており、母親や父親が不安を抱えながら子育てをしている。子育ての悩みや「産後うつ」などの現状を的確に把握して、次の事項についての予算対応を願う。

- (1) 情報通信機器の整備によるオンラインでの子育て相談窓口の設置
- (2) 子育て支援のスマホアプリやSNSの導入による情報発信の強化
- (3) 父親対象の子育て講座の強化、子育て世代の父親向けの新規研修事業などの外部委託を含めた実施

議会報告・意見交換会を開催しました

～市民の声を反映できるまちを目指して～

開催期間：9月30日～10月9日／会場：市内7カ所／参加人数：420人

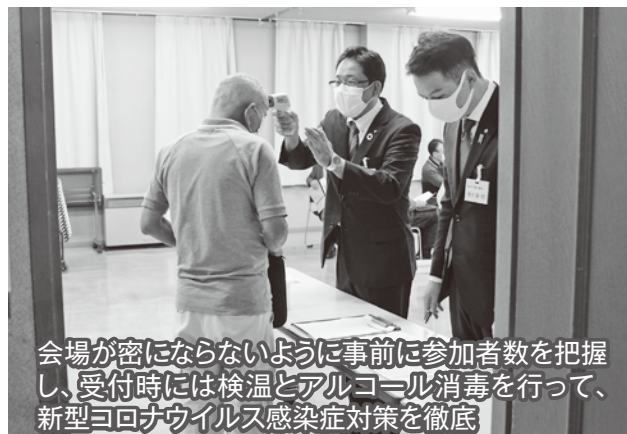
コロナ禍での議会報告・意見交換会の開催について、市民の皆様のご理解とご協力に大変感謝いたします。

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、まちづくり委員会の皆様のご協力を得て、参加者数の制限と事前把握、分科会でのみの開催、時間の短縮、検温とアルコール消毒の徹底などを行って開催しました。

飯田市議会では、「市民の皆様が開かれた議会」と「市政への市民参加の機会の確保」の実現のため、この議会報告・意見交換会を市民の声を政策に反映させる重要な起点と位置付けています。

コロナ禍ではありますが、従来の議会報告会に加えて、市民の皆様との意見交換を重視したいという観点から、「議会報告・意見交換会」に名称を改め、市民の皆様の声を多くいただくことができました。

ブロック名	遠山	中部	西部	北部	南部	竜東	飯田5地区	合計
開催日	9月30日	10月1日	10月2日	10月6日	10月7日	10月8日	10月9日	7日間
参加人数	43人	72人	46人	70人	47人	62人	80人	420人



分科会において議員が記録したご意見等と、ご参加いただいた方が記入したアンケートにおけるご意見等を整理し、関係する所管の委員会へ振り分けるとともに、取り扱いについて検討してきました。

いただいたご意見のうち、速やかに回答すべきと判断したものなどについて、中間報告として昨年末にまちづくり委員会へお伝えしました。

議会報告・意見交換会でいただいたご意見等の全体については、今後の予算審議等に生かしていきます。また、特に重要な事項は、委員会の所管事務調査や研究を行い、今年度末に報告を予定しています。

市議会からの
中間報告の内容
はこちら



代表質問 4～5ページ

各会派を代表して市政全般について質問します。会派の意見を次年度の予算に反映させやすいよう、飯田市議会では、12月(第4回定例会)で代表質問を行っています。

一般質問 6～7ページ

市長をはじめとする執行機関側に、事業の執行状況、今後の方針などを質し、説明を求めるものです。第4回定例会では、12人の議員が質問しました。



ズバリ 市政を問う!

第4回定例会の代表質問と一般質問の概要を紹介します。

- ▶ 質問順に掲載
- ▶ 末尾の■は、他の質問項目
- ▶ 質問の様子は、YouTubeで動画配信しています。



市長の政治姿勢について



代表質問 会派のぞみ

竹村 圭史 議員

Q 「新・環境文化都市」が描こうとする都市像は。

A 「環境文化都市宣言」の中に、経済を犠牲にしてでも環境を優先するというニュアンスを感じ取っていた。環境が経済かという考え方はなく、持続可能な経済発展のために積極的に環境の視点から社会のあり方を見直していく、環境をテコに暮らしと経済を再生していく、そんな考え方を基に再構築したいとして「新・環境文化都市」を提示した。

Q 「対話と現場主義で、心かよう市政」をつくるための考え方は。

A 大切なことは市民の皆さんのニーズに応えること。今何が必要かこれから何が求められるかをずれることなく把握すること。そのためにご意見に耳を傾け、現場に赴いて実際に状況を見ること。これが対話と現場主義が必要だと考える由縁である。心かよう市政とは、市民の皆さんの声が届く市政であり、市民の皆さんと共に歩む市政である。職員の間も市民の声に耳を傾けることで市政の見方が変わってくると考える。態度や言葉遣いといった基本的な部分も改めていきたい。



市政運営と予算編成について～SDGsについて～



代表質問 公明党

小林 真一 議員

Q 中期計画策定の際、SDGsの17の目標から更に踏み込み169のターゲットまで反映させる考えは。

A 169のターゲットまで落とし込むのは非常に専門的な知識が必要になってくる。ハードルが高くなることによって、上手くSDGsの取り入れができなくなるよりは、17の目標に着目して対応するピクトグラムを表示することで、どの目標に向かっているのかを市民の皆さんへお示しするところから始めたいと考える。

Q 10年後の飯田を担う児童生徒が現状の経験を活かしSDGsを学ぶための機会を取り入れる考えは。

A SDGsを学校のグランドデザインにすでに示して教育活動で実践している学校も出てきている。教育委員会がやってほしいと伝えるのではなく、子どもたちや学校現場・校長先生からSDGsをやりたいという声があがってくるのが非常に大事である。コロナ禍においてもできることはあると思うので、取り入れながら現場を支援していきたい。

■ Society5.0の到来に向けてこれからの子育て環境について



市長の目指すまちの姿「日本一住みたいまち」と、 前市政の象徴的な政策から転換を図る意図は



代表質問 会派みらい

原 和世 議員

Q 30年後「日本一住みたいまち」からは、まちの目指す姿が伝わらない。そのビジョンは。

A こうすれば誰もが住みたいまちになるということではなく、住みたい理由は人それぞれで、ひとつではない。市民の皆さんの困りごとをひとつひとつ解決し、こんなまちに住みたいという夢をひとつひとつ形にしていく。それを30年間積み重ねていくことで日本一住みたいまちになると考えた。

Q 市長も推進に関わった航空関連事業を「忸怩たる」と評したこと、今後の展望と展開は。

A これまでの取り組みを否定するわけではない。もつと航空機産業の拠点として活用されるべきところだが、利用が少ないことに忸怩たるものがある。

今後は航空機産業に偏らず、産業界全体のバランスを見ながら産業振興政策を展開していきたい。

コロナ禍において、航空機産業は非常に厳しい状況にあるため、これまで培ってきた高い技術を生かして当面多角化をしながら状況をしのぎ、事業需要回復期につなげていきたい。

■子育て・教育について



今定例会での市長挨拶などから見る 政治姿勢および新年度予算編成について



代表質問 日本共産党

後藤 莊一 議員

Q 市長は、「対話と現場主義」で市民の声を聞く姿勢を職員にも求めたが、具体的にはどうか。

A 市長就任後、納税課職員に対して滞納が何らかのサインになっている可能性があるという課題を抱えているかもしれないという意識を持つて対応することなどを指示した。真摯に市民の皆さんに向き合って、ご意見に耳を傾ける姿勢を職員にも求めている。

Q コロナ後の社会で「グリーンリカバリー」の考え方、「地域内経済循環」を経済政策の中心に据えているが。

A グリーンリカバリーは、アフターコロナ政策のひとつ。従来の社会構造に戻るのではなく、大量生産・大量消費・大量廃棄の経済システムの見直し、自然と共生したまちづくり、自然エネルギーの拡大による脱炭素社会、環境にやさしいものづくりなどを核とした社会を目指すもの。一方、過度に外部依存する経済を見直し、地域外から稼いだお金をどれだけ地域内で循環させるかという考え方が「地域内経済循環」であり、これを軸に産業政策全般を見直していきたい。



飯田市の「宝」である「地域自治」について ～将来を見据えた飯田市の予算の考え方について～



代表質問 市民パワー

福澤 克憲 議員

Q 市長の描く「地域自治組織」とは。地域の実情に合わせたパワーアップ地域交付金の検証が必要では。

A 飯田市は、合併前の地域を基礎的なコミュニティ単位として住民自治の活動が行われており、飯田市の特徴と言える。各地区に配置している職員が住民の皆さんの思いや課題を捉えて今後も支援していきたい。

パワーアップ地域交付金は1億500万円を交付しており、令和3年度に検証することになっている。まちづくり委員会の皆さんの意見を聴きながら検討していきたい。

Q リニア中央新幹線の開通や将来の飯田市を見据えた、飯田市としての長期財政見通しが必要な時期では。

A 厳しい財政状況にあって、これまで継続してきた事業についても点検し、費用対効果の乏しい事業は過去の経過にとられることなく思い切って見直していく姿勢で臨む。必要な事業も状況に応じて事業の進捗を調整する。一方で、単に財政のバランスを取るだけでなく、次世代に理解を得られる形で「投資すべきは投資する」という考え方も必要と考える。

飯田市の新型コロナウイルス
感染症対策について

古川 仁 議員 (日本共産党)



A 今後も地域医療を支えるための必要な支援をしていく。地域医療は飯田下伊那全体で支えていく必要がある。市町村間、あるいは医師会をはじめとした関係の皆さんと情報を共有して対策対応に努めたい。また、飯田市としての医療機関等に対する具体的な支援については、関係機関の皆さんの声を聴きながら検討していきたい。

Q 各医療機関はコロナの影響で厳しい状況と聞くが、市長として地域医療をどう守るのか。

市立病院のコロナ対応

清水 優一郎 議員 (会派のぞみ)



Q 院内感染を防ぎながら、患者と家族の気持ちに寄り添う対応と妊産婦へのサポートは。当院は急性期病院であり、患者への面会は原則禁止としているが、状況に応じて主治医が判断している。分娩時の立ち合いも制限しているが、陣痛時の助産師の訪問回数を増やすなど産婦の不安解消に努めている。また、希望により分娩直後の母子の写真撮影やビデオ通話の補助等を行っており、患者や家族の気持ちに寄り添う対応を心掛けている。

「農ある豊かな暮らし」の実現
について

吉川 秋利 議員 (会派のぞみ)



A 個人個人で菜園を楽しむということの先に、その菜園でできた野菜を地域の中で売り買いする、そういった形で高齢者の方々が生きがいを得ながら活躍していく地域社会は非常に素晴らしい姿である。そのような動きが当地域でさらに広がりをもたせていくように考えていきたい。

Q 高齢者が土に親しみ、余り野菜を提供しながらコミュニティを形成することについての考えは。

公契約条例の制定について

福沢 清 議員 (会派みらい)



Q 条例の必要性は確認できたが、制定に向けた「研究会」の設置はどのように進めるか。現在のところ「飯田市公契約に関する基本方針」の実効性を高めることを第一と考えている。研究を進めるにあたっては、受注者側である建設業団体の意見等を聴く必要がある。また、条例制定の観点では、国の「新・担い手3法」(品確法・建設業法・入契法)や「働き方改革」の展開を見極めた上で取り組む必要がある、段階的に考えていきたい。

子育ての孤立を防ぐための
取り組みについて

村松 まり子 議員 (公明党)



A 基本的には直接顔を見て相談のつていきたいというのが保健師のスタンスである。現在のコロナ禍において、市では全庁的な情報通信機器の整備計画が予算化されており、年度内に本庁・自治振興センターにオンライン相談の環境が整う予定がある。対面で相談が受けられない場合には、これを活用して相談の対応をしていきたい。

Q コロナ禍における「子育ての孤立」を防ぐため、子育て世代への新たな情報発信をどう考えるか。

リニア関連で移転対象者から
寄せられる声について

岡田 倫英 議員 (会派のぞみ)



Q 集合住宅の希望がある。市の対応が公設公営になるか、民間物件への入居支援も含むか整理しては。市として移転対象者の方のためだけに集合施設を建設して入居いただくのは二重補償になってしまうこともあり困難だと考える。そのためアパート、中古個別住宅を含む民間物件情報の紹介等の支援を行っている。民間物件の入居の支障となる年齢制限をクリアするために公営住宅の条件等を考慮しながら市による民間物件の活用を検討していく。

飯田の観光は本当に産業になっているか

木下克志 議員（会派のぞみ）



A 妙琴公園、野底山森林公園、下栗の里に、それぞれどこでお金が落ちるのかという観点から見ると、工夫の余地がある。天龍峡は大橋の開通によって多くの方に訪れていたが、実際に訪れていただいている場所がないというのは、指摘のとおりである。市内各所で観光としての経済効果が生まれるように考えていくのは大変重要と考える。

Q 来飯する観光客がお金を落とす仕組みが必要ではないか。経済効果が見えない。市の考えは。

「コロナ禍を乗り越える」ためのベースとなることは

木下徳康 議員（会派のぞみ）



Q コロナ禍の経済発展・市民活動には、早期発見と追跡可能な行動履歴の把握が必要と思うがどうか。

A 感染者の早期発見のためには検査体制の充実が必要となるが、当地域におけるコロナ感染の医療検査の確保をしながら体制を拡充することは難しい状況にある。また、感染源、濃厚接触者特定のための行動履歴の把握は重要と考えているが、当地域の感染者の行動調査は保健所が担っており、市としてはそれに協力していく立場。

コロナ禍が妊娠活動に与える影響について

木下容子 議員（市民パワー）



A この地域で生まれる子ども数が減っていることには危惧している。少子化対策という一言にとどまらず、この地域全体の活力を維持していくために、若い世代にこの地域に帰ってきてもらい、子供を産み育てやすい環境を整えることで、結果として生まれる子どもの数の減少に歯止めをかけることができると考える。

Q 緊急事態宣言下で妊娠届け出件数が減少している。少子化対策は喫緊の課題だが、市長の思いはどうか。

国際交流の推進に向け住民主体の交流への支援は

塚平一成 議員（会派のぞみ）



Q レガスピ市への支援を通じた交流など国際交流活動を地域力強化の観点からどう広め支援するか。

A 人形劇のみならず様々な分野での市民主体の交流が継続されていくことが、リニア時代を見据えた小さな世界都市の実現にとって必要不可欠である。市としても市民交流に関する状況や課題を把握しながら飯田国際交流推進協会等と必要なサポートをしていく。

■事業所の新型コロナ感染症対策について

市民が誇りを持てる環境文化都市の実現に向けて

山崎昌伸 議員（会派のぞみ）



A 共感する。（在京の飯田市出身者との話で）当市の環境への取り組みを見て、ふるさとを誇りに思っていたという人が地域外には大勢いると思う。市民の皆さんが飯田市が評価されていることを誇りに思うシビックプライドのひとつの重要な柱として据えるべきだと考える。環境への取り組みを市民の誇りにつなげていくよう一緒に推進していきたい。

Q 総務委員会では「環境への取り組みを市民の誇りにしたい」と取り組んでいるが、この考え方をどう思うか。

駐車場の確保を条件としている新飯田文化会館について

井坪隆 議員（会派みらい）



Q 「駐車場の確保」は当然であり、重要なのは、この地域にあつての文化会館の在り方ではないか。

A 新文化会館の建設にあたって、十分な駐車場を確保することは市民の皆さんの関心事であり、満たすべき条件のひとつだと考える。

一方で、駐車場、規模、立地等、一体的に議論していく必要がある。検討にあたっては、まちや文化の在り方を考える中で、市民の皆さんから議論が起こり、整理されていくプロセスが必要と考える。

総務委員会

12月10日に委員会及び予算決算分科会を開催しました。委員会の様子はYouTubeをご覧ください。



飯田市消防団条例の一部を改正する条例の制定について

Q 団員数が140人減るとのことだが、それでも消防力を維持できるとの根拠は何か。また、予防消防の視点から見てどうか。

A 今回、予防広報班を廃止したことによる減少であり、機関操作など消防力には影響はない。また、予防に関しては、警防活動の中で対応できると考える。



▲女性団員が取り組む救護訓練

公の施設の指定管理者の指定について（飯田市法山地域振興センター）

Q 集会施設は、今後5年間で管理方法の整理をしていくとのことだが、今回の議案には、それが反映されているか。

A 「飯田市公共施設マネジメント基本方針」の第2段階の取り組みに沿って、指定管

理期間を10年間で5年間に短縮し、5年間で地元と管理方法についての協議を進める。

Q 施設管理、清掃、展示物の維持補修などは業務委託が適しているとも聞く。業務委託又は指定管理のいずれが合っているのか点検しながら、管理方法を検討していくということか。

A 集会施設に関しては基本的に直営ということはない。施設の中にはその目的によっては業務委託とするものもあり得る。

キーワード

飯田市公共施設マネジメント基本方針

飯田市が保有する公共施設（建物）の現状と課題を分析し、効率的かつ効果的な維持修繕の実施による施設の長寿命化、管理運営の見直しによる施設保有量の最適化など、公共施設（建物）の有効活用を図るための基本的な考え方や整理の進め方をまとめたもの

第1段階（2015～2019年度）

17分野201施設を優先検討施設として選定して方向性を整理

第2段階（2020～2029年度）

市が所有するすべての建物（市立病院、上下水道施設は除く）を①市の主要な建物、②予防保全型施設、③事後保全型施設に分類し、施設そのもののあり方の見直しなどを実施



《総務分科会》 令和2年度補正予算審査

令和2年度飯田市一般会計補正予算（第10号）案について

Q 9款1項5目災害対策費の歳入で「災害対策寄附金」とあるが、具体的には何か。

A 今年7月の豪雨災害を受けて、県を通じて今回初めて申し出があった、ジャニーズグループからの寄附金である。



▶市道南信濃28号線（復旧前㊤・復旧後㊥）

Q 県の信州被災者生活再建支援制度補助金の支給条件は。

A 市内の全壊、半壊の件数が10世帯未満であったため、国の補助制度の対象とはならず、今回、県の補助制度を利用したものである。補助額は半壊の37万5千円で、負担割合は県が2分の1、市が2分の1となっている。

請願及び陳情の審査結果

種別	内 容	結果
請願第6号	国に対し、今後も発生が予想される新たな感染症拡大などの事態にも対応できるよう安全・安心の医療・介護の実現と国民のいのちと健康を守るための意見書の提出について	不採択
請願第7号	国に対し、義務教育費国庫負担制度の堅持・拡充を求める意見書の提出について	採 択
請願第8号	国に対し、国の責任による35人学級推進と教育予算の増額を求める意見書の提出について	採 択
請願第9号	国に対し、複式学級の編成基準の改善、教職員定数増を求める意見書の提出について	採 択
請願第10号	県に対し、少人数学級の一日も早い実現を求める意見書の提出について	継続審査
請願第11号	国に対し、少人数学級の一日も早い実現を求める意見書の提出について	継続審査
陳情第2号	長野県知事に対し、へき地教育振興法に鑑み、へき地手当等支給率を近隣県並みの水準に戻すことを求める意見書の提出について	採 択

令和2年第4回定例会では、請願6件及び陳情1件を社会文教委員会で慎重に審査を行い、請願3件と陳情1件を「採択」、請願2件を「継続審査」、請願1件を「不採択」としました。採択の結果を経て、市議会は12月18日付けで国及び県に対して意見書の提出を行いました。

請願第6号が不採択とされた理由の概要は、以下のとおりです。

- (1) 既に国や県が対応している内容も含まれている一方で、国民負担軽減も求めており、相反する主張となっている。
- (2) コロナ禍において国民や医療機関は大変な状況であるが、コロナ禍と本請願意見の関係性は不明であり、当市議会としては冷静に判断する必要があると考える。

請願及び陳情の審査について

社会文教委員会

12月11日に委員会及び予算決算分科会を開催しました。委員会の様子はYouTubeをご覧ください。



▲対話をしながら学ぶ子どもたち



《社会文教分科会》 令和2年度補正予算審査
文化財保護費について

Q 上郷考古博物館に生涯学習・スポーツ課の文化財担当を移転し、展示、調査研究、市民活動支援の3つの機能を統合することで文化財活用の中核施設として活用するとの説明だった。議会による行政評価で指摘した歴史研究所も含めた研究者の拠点という考え方は、どのように整理したのか。

A 考古学分野の拠点を1カ所にまとめたいという提案であり、文化財担当の職員も集約することにより、リニア時代を見据えた古墳や遺跡などの文化財の活用をしたい。歴史研究は、美術博物館の人文分野と歴史研究所の関係、さらに図書館との関係もあり、研究している最中である。

Q 恒川官衙（かんが）遺跡などを生かすためにも上郷考古博物館は大切な博物館になり、方針が大きく転換することになるの力を入れて活動して欲しい。

A リニア時代を見据え、今から、研究者や地域の皆さんに集まっていたいただき、文化財の魅力発信について考えていきたい。また、上郷考古博物館を活用するなかで、将来の計画にある恒川官衙のガイダンス機能に関しても意識し、取り組んでいきたい。

▶文化財活用の中核施設として活用する上郷考古博物館



産業建設委員会

12月14日に委員分算及び決算並びに委員会を開催しました。委員会の様子はYouTubeをご覧ください。



上村しらびそ高原施設の運営状況の視察と指定管理者の大空企画との懇談について

委員会の所管事務調査として扱っている「遠山郷の指定管理施設の運営状況」に関し、委員会がこれまでに報告や提案してきた内容事項を検証。その一環として、冬季休業に入る前の11月上旬、しらびそ高原「天の川」を視察するとともに、施設の指定管理者である大空企画と懇談をしました。

コロナ禍にあつて、遠出や外出を控える状況の中、市内からの入込みや宿泊が従来と比べて増加していること、また、施設から見られる美しい星空を生かしたダークナイトツアーの実施によって、来期へ期待がつのる業績の見通しと将来ビジョンについて、大空企画から説明がありました。

【視察・懇談に対する委員の所感の要約】

○今期の業績は前年に続いて赤字決算が見込まれるが、経営体制の一新や南信州観光公社の指導による経営改善は評価。

○施設からの眺望や夕日、星空、朝日など立地のポテンシャルを生かした取り組みの展開に期待。

○来期は軽食の提供も検討されているが、食事においては、地元食材のさらなる活用とともに、そのアピールが重要。

○収益向上には通年営業が理想だが、水回りなど施設設備や施設への道路事情など課題があり検討が必要。 など



・8月から11月に実施したダークナイトツアーの宿泊の受け入れ 248泊(18日間)
・10月の観月パックの宿泊の受け入れ 75泊(6日間)
(11月15日から冬季休業に入り、来期は4月第2土曜日以降の営業の見込み)

◇市監査委員が「財政援助団体等監査」として大空企画及び所管部署の観光課等を対象に監査を実施し、市議会12月定例会へ監査結果を報告しました。今後、議会としては委員会の所管事務調査において、監査結果の内容などについて確認していく予定です。



▲順調に進むトンネル工事
三遠南信自動車道青崩峠道路の開通に期待

三遠南信自動車道青崩峠道路(トンネル工事)の現地見学について

三遠南信自動車道小嵐IC(仮称)と水窪北IC(仮称)間にあたる青崩峠道路のトンネル工事について、飯田国道事務所や施工業者らのご協力のもと、工事現場を見学。進捗や工法などの説明を受けました。

トンネル本坑(4,998m)は、長野県側と静岡県側の両方からNATM工法により工事が進められており、11月末で約45%の掘進長となっています。

三遠南信自動車道の開通によって地域へ大きな経済効果が期待されます。飯田市と浜松市を結ぶ青崩峠道路の開通を見据えた遠山郷の地域づくりが急がれます。

予算決算委員会

11月25日に前期全体会、12月18日に後期全体会を開催しました。委員会の様子はYouTubeをご覧ください。



前期全体会での報告内容を掲載します。

令和2年度飯田市一般会計補正予算（第9号）案について

新型コロナウイルス感染症に関する緊急対策事業の補正予算であり、市民の皆さんも大きな関心を寄せているため、執行機関に対して次の2点を要望しました。

(1) コロナ禍における学生支援と成人式の開催は、状況を見ながら対応し、感染予防対策に務められたい。

(2) コロナ対策の減額補正については認めるものの、第3波と言われる状況下にあつて、今後の感染状況を見極め、経済対策等を図られたい。
※成人式は延期になりました。

令和2年度飯田市一般会計補正予算（第11号）案について

新型コロナウイルス感染症の影響により依然として厳しい状況が続いているとして、国の方針を受け、一定の要件を満たす低所得のひとり親世帯に対して一世帯あたり5万円（さらに2人目以降の子一人あたり3万円ずつ上乗せ）のひとり親世帯臨時特別給付金を再支給することになりました。

リニア推進特別委員会

11月24日と12月16日に特別委員会と特別委員会協議会を開催しました。委員会の様子はYouTubeをご覧ください。



リニア駅周辺整備に係る実施設計の進捗状況について

Q リニア駅周辺整備事業は、財政見通しを示した上で大屋根、駐車場などの計画を示すべきでは。

A 現在は絵姿や理念の検討が先行しているが、今後は維持管理などの現実的な観点から具体的な事業費と合わせて提案できるようにしたい。

北条地区意見交換会について

Q 集合住宅の意向調査の実施の予定は。

A これまでも聞き取りなどを通じて意向はお聞きしているが、改めてできるだけ早い時期に調査を実施したい。この調査を基に、高齢者、身寄りのない方などが途方に暮れることなどがないようにすることを最優先に対応したい。

まとめとして、委員から「説明会、懇談会に来られない方などの声なき声を聞く姿勢、行動をとっていただきたい」との要望がありました。



農振除外の要望書を提出

県知事と市長に、リニア中央新幹線の関連事業等により移転をお願いする皆さんに係る農振除外手続に関する要望を実施

移転を余儀なくされる住民、事業者の皆さんの生活設計、経営計画に対する不安をできる限り除去し、寄り添った対応が求められるため、県知事と市長に対し、農振除外の判断への配慮と事務手続に要する期間の迅速化を要望しました。



▲議長から南信州地域振興局長へ要望書を手交

【要望内容（一部要約）】

リニア中央新幹線の関連事業により移転先の候補を農振農用地とする案件に関し、次の事項を要望する。

（長野県知事宛て）

農振除外手続が円滑に進むための引き続きの協力

（飯田市長宛て）

- (1) 農振除外に関する手続と審査への特段の配慮
- (2) 事前協議に関する手続の更なる迅速化

議会だよりの表紙デザインを決定



▲通常号



▲特別号（臨時号）

広報広聴委員会では、より親しみやすい議会だよりの表紙デザインを検討し、2つのパターンを決定しました。

通常号は、音符を奏でる「時の番人」が印象的なやわらかいイメージの表紙デザイン。

特別号（臨時号）は、飯田市の市街地から望む風越山と虚空蔵山の景観が印象的なしっかりとしたイメージの表紙デザイン。

これからも、地域の皆さんを主にした旬の写真と共に、議会の今をお届けします。

表紙紹介

がんばっとるに!! 三穂

12月21日に三穂保育園で正月飾りの「おやす」作りが行われました。当日は三穂地区の住民の皆さんが作り方を教えに来てくださり、今年1年のお礼と新しい年への願いを込めておやす作りが始まりました。おやすに使うわらは三穂地区の田んぼのもので、作り終えた子どもたちから気持ちよくお礼の挨拶がありました。

新年が穏やかな1年となりますように。

議会の動き(予定)

- 第1回定例会 2月24日(水)～3月19日(金)
- 一般質問 3月9日(火)～10日(水) (傍聴可能)
 - ※質問内容は2月26日の午後以降に飯田市議会ホームページに掲載されますのでご確認ください。
- 委員会日程(傍聴可能)
 - 予算決算(前期全体会2月24日、後期全体会3月17日)
 - 総務(3月1日、2日)、社会文教(3月2日、3日)、産業建設(3月3日、4日)、リニア推進(3月8日)
- 議会への請願・陳情は、2月9日(火)午後5時までに、議会事務局へご提出ください。

飯田市議会スポーツ振興議員連盟が佐久市のスポーツ施設を視察

南信州地域で検討が進むアリーナ機能を中心とした複合施設の参考とするため、飯田市議会スポーツ振興議員連盟が、10月21日に佐久市の長野県立武道館と佐久総合運動公園を視察しました。

長野県立武道館は、令和2年2月に竣工。地元産材のアカマツ、スギなどをふんだんに使用し、災害時には物資拠点又は避難所ともなる主道場は、武道以外にもコンサートやスポーツの会場にもなります。また、佐久総合運動公園は、マレットゴルフ場、第2種公認陸上競技場、公認野球場、クロスカントリーコースなどの多目的総合運動公園として平成12年度から整備が進んでいます。



▲長野県立武道館



▲佐久総合運動公園

どうする どうなる

ここに注目!

全員協議会などにおける協議事項や報告事項をご紹介します。

飯田市第12次消防力(消防団)整備計画について

(令和3年度からの5カ年計画)

消防団を中核とした地域防災力の充実・強化を図り、もって飯田市及び周辺地域の安全・安心のまちづくりに寄与することを目的として、本計画を策定しました。

自然災害が頻発する今日において、地域防災力の強化は喫緊の課題となっています。

【前計画(第11次)からの主な変更点】

- ① 消防ポンプ車を車両重量3.5t未満の小型動力ポンプ付き積載車へ変更配備
- ② 各種免許等取得費用助成制度の充実



▲倒木を切断する訓練の様子と救助資機材を搭載した多機能型積載車

- ③ 消防車両へのドライブレコーダーやバックモニター等の安全装備品の整備

広報広聴委員会

委員長	竹村 圭史	副委員長	福澤 克憲		
委員	清水優一郎	塚平 一成	古川 仁隆		
	永井 一英	新井信一郎	井坪		